

# 大きな夢を追いかけ続けて…

## 渡辺浩司選手(ファイターズ)に聞く

白根市初のプロ野球選手として、昨シーズン大活躍した渡辺浩司選手(東笠巻新田出身)。彼の頑張りやマスコミでも取り上げられ一躍注目を浴びました。二十年來の夢を追い続け、それを實現した彼の姿は私たちに勇気と希望を与えてくれました。シーズンオフを利用して里帰りした渡辺選手にお話を伺いました。



▲大鷲中学校時代の同級生が集まって、激励会を開いた。前列右から2人目が渡辺選手。

— 昨シーズンは大活躍でしたね。ご苦労さまでした。  
渡 ありがとうございます。昨年はたくさんのご声援をいただきました。本当にうれしく思っています。感激しています。

— プロ入り十四年目にしてのレギュラー定着ということですが、「長年の苦労が実って」、「新潟県人特有の粘り」と、かなりマスコミなどでも騒がれましたが。  
渡 いろいろ言われているみたいですが、実は自身はそんなに苦労したとは感じていないんです。単にやりたいことをやっていたわけですから。むしろチャンスがうまく生かされたという気がしますね。

— レギュラー定着まではいろいろ大変だったと思いますが、渡 シーズン前のキャンプ三日目で二軍落ちを言い渡されたんです。監督は「オープン戦で絶対使え」と言ってくれましたが、さすがにがっかりで…。そのときはもう本当にやる覚悟をしました。家族もあることだし妻に相談したら「あなたの好きにしたら」と。でもやっぱり一年契約したんだから途中で

子たちには大きな夢としっかりした目標を持つてほしい。それに向かってあきらめずに努力していつてほしい。これは野球とかスポーツに限らず、すべてにおいてね。  
— ありがとうございます。最後に白根市の皆さんに一言お願いします。  
渡 はい。オールスターのファン投票などでは白根市の皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございます。来シーズンも頑張ります。これからもご声援よろしくお願ひします。

投げ出すのは良くないと思っ  
て続けました。  
— それが良い結果に結びつ  
いたわけですね。  
渡 チャンスはどこにでも転  
がっていると思うんです。私は  
シーズン初めに代打で使われて  
ヒットを打った。その後、白井  
さんがけがをして休んだときに  
使われて、また二打席ヒットを  
打った。最初の二打席でヒット  
が出なかったら、私は今ここに  
いません。本当のワンチャンス  
を百パーセント生かしたんで  
す。昨年は「人生分からない」  
というのを痛感した年でしたね。  
— 何か心に期すものがあつた  
んでしょか。  
渡 私の仕事は野球です。仕事  
をするからには頂点を極めたい  
というも思っていましたね。プ  
ロなんだからベンチにいてもつ

まらない。やっぱりお客さんの  
前でプレーしたいんです。やめ  
ようと思つたことは何度かあり  
ました。でもやるからには頂点  
に上がるまでは絶対あきらめな  
いぞと。その一心でここまでつ  
なげてきたんです。  
ある程度ベテラン選手になる  
と若手に押されてしまつてしま  
う。練習も手を抜きがちになる。  
昔それを見ながら「俺は絶対あ  
んなふうにはならない」と思っ  
ていました。だから年を取つて  
も若いやつらと同じように投げ  
て走ってきました。ベテラン扱  
いされなくなつたから…。そ  
んな姿が監督、コーチの目に留  
まつたのかも知れませんね。

— 渡辺選手が普段心掛けてい  
ることなどありますか。  
渡 何事においても、夢を持つ  
こと、そしてそれを追い続けて  
いくことが大切だと思つていま  
す。白根市にもたくさん野球  
少年がいるでしょうけど、その

長年の夢を追い続けて、見事  
に花を咲かせた渡辺選手。芽が  
出なかったころは「故郷に帰つ  
て来るとさみしく感じた」と  
か。「まだまだ夢がなくなつた  
わけではありませんから」と言  
う渡辺選手の一層の活躍を期待  
したいものです。

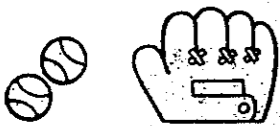
まらな。やっぱりお客さんの  
前でプレーしたいんです。やめ  
ようと思つたことは何度かあり  
ました。でもやるからには頂点  
に上がるまでは絶対あきらめな  
いぞと。その一心でここまでつ  
なげてきたんです。  
ある程度ベテラン選手になる  
と若手に押されてしまつてしま  
う。練習も手を抜きがちになる。  
昔それを見ながら「俺は絶対あ  
んなふうにはならない」と思っ  
ていました。だから年を取つて  
も若いやつらと同じように投げ  
て走ってきました。ベテラン扱  
いされなくなつたから…。そ  
んな姿が監督、コーチの目に留  
まつたのかも知れませんね。



▲里帰りの最終日の12月19日、北中学校で講演

### 渡辺浩司 〓わたなべ・ひろし

昭和38年8月9日、東笠巻新田に生まれる。大鷲小・中学校を卒業。新潟商業から日本ハムへ。昨年、プロ入り14年目にして持ち前の打撃センスが開花。白井選手のけがというチャンスを生かしてレギュラーに定着した。昨シーズンは主に2塁手として116試合に出場、打率2割4分6厘、打点45、本塁打3の成績を残す。



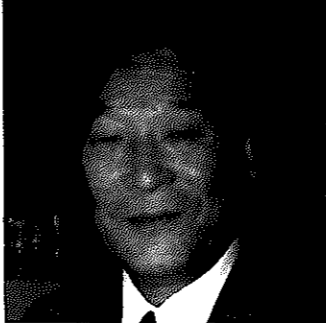
# 新しい公民館の実現に 夢膨らむ

## 中央公民館利用団体協議会

旧白根中学校の校舎、現在の教育委員会庁舎に中央公民館が移ったのは、今から二十年前のこと。長い間、市民の皆さんから親しまれてきたこの公民館も、建物の老朽化が進んでいま

中央公民館では四十三の団体がさまざまな活動を活発に行っていて、平成六年一月には「中央公民館利用団体協議会」が設立されました。  
協議会の目的は、利用団体間の連絡調整や研修会、新しい中央公民館の建設促進運動などです。昨年十二月には約百二十人が中央公民館に感謝を込めて大掃除を行い、現公民館の環境整

備にも努めています。  
しかし今の公民館を利用すればするほど不自由さを実感。現段階の活動は新公民館実現に向けての運動が中心です。一昨年は、会のメンバーが力を合わせて、新公民館・新図書館の建設を求める署名運動を行い、一万八千人分を集め、請願書を六月議会に提出し、採択されました。  
第二代会長の風間征由さん(みの口)は「署名簿は最初の予定を三千人もオーバーしました。それだけ市民の皆さんの理解があつたということでしょう」と振り返ります。「請願の採択でだいぶ明るい見通しが立ち、建設を待ち望んでいます。建設場所、内部の構造などは、いろいろ問題があるでしょうから市にお任せするしかないにしても、少しでも私たちの意向を考慮してもらいために運動を続けていきたいですね」と今後の活動にも意欲を見せています。



▶風間征由会長

中央公民館ではたくさんの方のサークル・団体が活動しています。利用団体の幾つかをご紹介します。

### ●陶炎木曜コース(陶芸)

八年前、公民館の陶芸講座から自主グループに育つた陶炎木曜コース。毎週木曜日、九人のメンバーが中央公民館の陶芸室で土をこね、ろくろを回します。出来上がった作品は文化祭に出展したり、チャリティー販売したり。楽しく活動が続けていま



●陶炎木曜コース

代表の細貝漢子さんは「文化祭の場合、教育委員会の体育館はちよつと暗いですね。窯場も遠いし。もちろんここも広くてとてもいいんですけど。明るい公民館ができれば、作品も美しく飾れるかしら」と笑顔で話しています。

### ●糸の会(三味線)

昭和五十一年、当時の民謡



●糸の会

新しい公民館については、「ここは環境的なかなかないです。からね。補修すれば十分使えますよ。」でも造るなら文化会館的なものがないかな。音響、照明の装置がそろつた劇場的な要素があると素晴らしいですね」とも。「いっぱい練習して全国の民謡をたくさん覚えたい」と意欲いっぱいの皆さんです。

●身近な情報をお寄せください(企画財政課広報広聴係 ☎373-2111)